

「保育実習Ⅰ（施設）」と「保育実習Ⅲ」の実習内容について ——実習施設の対応状況——

On Practicum Content of “Childcare Practicum I (Facility)” and “Childcare Practicum Ⅲ”: Practicum Facilities’ Response

西村 重喜・稲垣 順子

Shigeki Nishimura, Junko Inagaki

はじめに

A 短期大学は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局が発出した通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」¹⁾(以下、「運営の基準」)に基づき、全ての学生が「保育実習Ⅰ」を、学生の希望に応じて「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」を履修できるようカリキュラムを構成している。

「運営の基準」では「乳児院や児童養護施設など、保育所及び幼保連携型認定こども園並びに小規模保育A・B型及び事業所内保育事業を除く児童福祉施設」(以下、「施設」)における実習を、「保育実習Ⅰ」と「保育実習Ⅲ」に位置づけており、その内容は表1のとおりである。

施設における実習の事前事後指導も、「運営の基準」に基づき、演習科目である「保育実習指導Ⅰ」及び「保育実習指導Ⅲ」において対応しているところである。

筆者は、実習訪問指導時の観察・面談、実習受入施設の職員との意見交換、学生が記した実習簿を手がかりにして、「施設における『保育実習Ⅰ』」(以下、「保育実習Ⅰ（施設）」)並びに「保育実習Ⅲ」の実態把握に努めている。

さらに、この実態把握で得られた内容を「保育実習指導Ⅰ（施設）」と「保育実習指導Ⅲ」にフィードバックして、事前指導の充実を図っている。

しかしながら、この手法では、印象に残りにくい内容や記述しにくい内容を見落とす可能性がある。そこで、「保育実習Ⅰ（施設）」と「保育実習Ⅲ」の実習内容について調査・分析を行い、「保育実習指導Ⅰ（施設）」と「保育実習指導Ⅲ」の授業改善に資することとした。

表1 保育実習Ⅰ・Ⅲの目標と内容

保育実習Ⅰ	保育実習Ⅲ
<p><児童福祉施設等（保育所以外）における実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 施設の役割と機能 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもの生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもの活動と環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 	<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化

※厚生労働省 R4.8.31付「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」より引用。保育実習Ⅰ欄は〈保育所実習の内容〉を省いて記載した。

方 法

調査方法

資料として記載したアンケート用紙を用い、無記名式アンケートを実施した。

※アンケート実施依頼状に、回答者が不利益にならないよう匿名であること、アンケート結果は研究調査のみに使用することを記載し、回答者への周知を図った。

調査対象

調査対象は、A短期大学の「保育実習Ⅰ（施設）」及び「保育実習Ⅲ」の実習受入施設とし、兵庫県、京都府、福井県内の計21施設に回答を依頼した。

調査項目

設問2～5、設問7～12の選択肢は、児童養護施設運営指針²⁾第Ⅱ部各論に基づき構成した。

調査時期等

アンケート送付・回収は令和5年8月に行った。回収率は81.0%（21園中17園）であった。回答があった17園中2園は、児童養護施設と乳児院を併設しており、回答件数は19件とした。

結 果

「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ」の受け入れ状況

調査対象施設における「保育実習Ⅰ（施設）」と「保育実習Ⅲ」の受け入れ状況は表2のとおりで

あった。

表2 「保育実習Ⅰ（施設）」と「保育実習Ⅲ」の受け入れ状況

分類区分	施設数 (%)
保育実習Ⅰ（施設）のみ対応	3 (15.8%)
保育実習Ⅲのみ対応	3 (15.8%)
保育実習Ⅰ（施設）と保育実習Ⅲの両方に対応	13 (68.4%)

学生が子ども（利用者）に直接関わる実習の内容

設問2及び設問7の回答は表3のとおりであった。

表3 学生が子ども（利用者）に直接関わる実習の内容

区分	保育実習Ⅰ （施設）	保育実習Ⅲ
食事の支援・指導	13 (81.3%)	14 (87.5%)
間食（おやつなど）の支援・指導	12 (75.0%)	13 (81.3%)
調理の支援・指導	3 (18.8%)	4 (25.0%)
衣服の着脱支援・指導	9 (56.3%)	10 (62.5%)
衣類の整理・保管の支援・指導	9 (56.3%)	11 (68.8%)
衣類の洗濯支援・指導	8 (50.0%)	10 (62.5%)
傷んだ衣類の修繕支援・指導	1 (6.3%)	3 (18.8%)
居室の整理・整頓・清掃の支援・指導	10 (62.5%)	12 (75.0%)
共用部分の整理・整頓・清掃の支援・指導	13 (81.3%)	11 (68.8%)
建物外の整理・整頓・清掃の支援・指導	9 (56.3%)	7 (43.8%)
植栽、花壇などの手入れの支援・指導	3 (18.8%)	2 (12.5%)
余暇活動時間などの遊びの支援・指導	14 (87.5%)	15 (93.8%)
学習（宿題、予習、復習など）の支援・指導	7 (43.8%)	8 (50.0%)
小遣いの使用、金銭の自己管理の支援・指導	0 (0%)	2 (12.5%)
子どもどうしのトラブルへの対応	9 (56.3%)	11 (68.8%)
起床、就寝の支援・指導	11 (68.8%)	11 (68.8%)
排泄の支援・指導	10 (62.5%)	10 (62.5%)
洗面、歯磨きの支援・指導	13 (81.3%)	11 (68.8%)
入浴の支援・指導	9 (56.3%)	10 (62.5%)
その他	3 (18.8%)	0 (0%)

保育実習Ⅰ（施設）の実習内容と保育実習Ⅲの実習内容には同様の傾向が見られた。調理の支援・指導は実施頻度が少ないことが、学習の支援・指導は対象が就学児童に限られることが、低い割合となった理由と考えられる。その他には、「作業支援」「行事への参加」があがっていた。

学生が子ども（利用者）に直接関わらない実習の内容

設問3及び設問8の回答は表4のとおりであった。

表4 子ども(利用者)に直接関わらない実習の内容

区分	保育実習Ⅰ (施設)	保育実習Ⅲ
食事の準備・片付け	2 (12.5%)	2 (12.5%)
衣類の整理・保管	7 (43.8%)	6 (37.5%)
衣類の洗濯	8 (50.0%)	7 (43.8%)
衣類の修繕	10 (62.5%)	7 (43.8%)
居室の整理・整頓・清掃	5 (31.3%)	3 (18.8%)
共用部分の整理・整頓・清掃	3 (18.8%)	4 (25.0%)
建物外の整理・整頓・清掃	4 (25.0%)	6 (37.5%)
植栽、花壇などの手入れ	9 (56.3%)	7 (43.8%)
余暇活動支援の準備	0 (0%)	4 (25.0%)
学習支援・指導の準備	7 (43.8%)	6 (37.5%)
その他	2 (12.5%)	2 (12.5%)

保育実習Ⅰ(施設)の実習内容と保育実習Ⅲの実習内容は同様の傾向であるが、保育実習Ⅰ(施設)では余暇活動支援の準備が皆無である。保育実習Ⅲを終えた学生から、指導案を作成して企画運営を行った旨の報告を受けることがある。このことが回答4件(25%)に結びついたと考えられる。

その他には、「壁面装飾」、「学習会への参加」があがっていた。

個別支援計画についての実習の内容

設問4及び設問9の回答は表5のとおりであった。

表5 個別支援計画についての実習の内容

区分	保育実習Ⅰ (施設)	保育実習Ⅲ
「自立支援計画」を閲覧し、研修を受ける。	3 (18.8%)	4 (25.0%)
「個別支援計画」を閲覧し、研修を受ける。	2 (12.5%)	4 (25.0%)
「個別支援計画」を通して、課題解決に向けた対応を理解する。	8 (50.0%)	9 (56.3%)
観察・記録に基づいた、「個別支援計画」の作成を行う。	2 (12.5%)	1 (6.3%)
その他	2 (12.5%)	2 (12.5%)

自立支援計画、個別支援計画ともに閲覧は避けられる傾向がうかがえるが、半数以上の施設は、個別支援計画に基づいた対応が展開されていることを理解させようと工夫している。「個別支援計画の作成を行う」と回答した施設は、養成校及び学生からの強い要望があれば、限定的に対応するとの条件付であった。その他には、「学習会で学ぶ」、「実習の振り返りの際に伝えている」があがっていた。

(保育実習Ⅰ（施設）限定の設問) 職員間の役割分担や連携についての実習の内容

設問5の回答は表6のとおりであった。

表6 職員間の役割分担や連携についての実習の内容

区分	回答
職員間の役割分担と連携について、研修を受ける。	10 (62.5%)
職員朝礼に参加する。	10 (62.5%)
職員朝礼に参加し、実習生が関わる予定等を報告する。	5 (31.3%)
シフトが異なる保育士どうしの業務引継時に立ち会う。	2 (12.5%)
シフトが異なる保育士への業務引継を行う。	1 (6.3%)
その他	0 (0%)

研修、職員朝礼への参加によって対応している施設が過半数に及ぶが、学生が業務引継に関わることはほとんど実施されていないことがわかる。

(保育実習Ⅲ限定の設問) 子どもの家族への支援と対応に関する実習の内容

設問10の回答は表7のとおりであった。

表7 子どもの家族への支援と対応に関する実習の内容

区分	回答
「子どもの家族」の支援の状況について、研修を受ける。	13 (81.3%)
「子どもの家族」と対応する場に職員と同席し、観察実習を行う。	3 (18.8%)
「子どもの家族」と対応する場に職員と同席し、子どもとの関わりを報告する。	0 (0%)
「子どもの家族」と対応する場に職員と同席し、子どもの家族とのコミュニケーションを図る。	0 (0%)
その他	2 (12.5%)

研修によって対応する施設がほとんどであり、学生を子どもの家族と同席させる施設は極めて少ない。その他には、「実習の振り返りの際に伝えている」、「学習会で学ぶ」があがっていた。

(保育実習Ⅲ限定の設問) 多様な専門職との連携に関する実習の内容

設問11の回答は表8のとおりであった。

表8 多様な専門職との連携に関する実習の内容

区分	回答
職員間の役割分担と連携について、研修を受ける。	12 (75.0%)
職員朝礼に参加する。	9 (56.3%)
職員朝礼に参加し、実習生が関わる予定等を報告する。	5 (31.3%)
シフトが異なる保育士同士の業務引継時に立ち会う。	2 (12.5%)
シフトが異なる保育士への業務引継を行う。	3 (18.8%)
ケース会議等に参加し、保育士以外の専門職との連携の在り方について理解する。	0 (0%)
その他	1 (6.3%)

設問5と同様の傾向がうかがえる。その他には、「昼のミーティングに参加」があがっていた。

(保育実習Ⅲ限定の設問) 地域社会との連携に関する実習の内容

設問12の回答は表9のとおりであった。

表9 地域社会との連携に関する実習の内容

区分	回答
地域の一般家庭を対象とした子育て相談について、研修を受ける。	4 (25.0%)
地域の一般家庭を対象とした子育て相談の場に同席し、観察実習を行う。	1 (6.3%)
地域の一般家庭を対象とした子育て相談の場に同席し、相談者とコミュニケーションを図る。	0 (0%)
児童相談所等の関係機関との連携について、研修を受ける。	7 (43.8%)
児童相談所等の関係機関との会議などに出席し、観察実習を行う。	0 (0%)
学校、幼稚園などとの連携について、研修を受ける。	5 (31.3%)
学校、幼稚園などとの情報交換の場に同席し、観察実習を行う。	0 (0%)
学校、幼稚園を含む地域の行事への参加に同行し、子どもの支援を行う。	4 (25.0%)
その他	2 (12.5%)

子育て相談、関係機関との連携、学校などとの連携ともに、研修により対応する施設が多く、同席や観察を実施する施設はほとんどない。一部の施設は、学校などの行事への参加への同行を実施している。その他には、「実習の振り返りの際に伝えている」、「施設が実施する事業への参加」があった。

考 察

「学生が子どもに直接関わる実習の内容」、「学生が子どもに直接関わらない実習の内容」、「職員間の役割分担や連携についての実習の内容」については、実習訪問指導時の観察・面談、実習受入施設の職員との意見交換、学生が記した実習簿に基づいて想定した傾向が認められた。

「個別支援計画についての実習の内容」、「子どもの家族への支援と対応に関する実習の内容」、「地域社会との連携に関する実習の内容」については、施設の取組状況を把握する機会がなく、「保育実習指導Ⅰ（施設）」や「保育実習指導Ⅲ」において、どの程度の知識技術を求められているのか確信を持ってないまま事前指導を行っていた。今回の調査により、多くの施設が研修により対応していることが明らかになった。

「学生が子どもに直接関わる実習の内容」、「学生が子どもに直接関わらない実習の内容」について

これらの実習内容は、施設職員の業務の大半を占めるものであり、学生の日常生活における経験に類似している。そのため、実習全体に占める割合も大きいと考えられる。

「職員間の役割分担や連携についての実習の内容」、「多様な専門職との連携に関する実習の内容」について

研修、職員朝礼への参加によって対応している施設が過半数に及ぶことから、観察を主体とした

学習が求められていることがわかる。

前者については、厳重な守秘義務が課せられる個人情報取り扱いられるケースが多いと予想され、実習生が様々な情報を受け取ったり、情報の受け渡しに同席したりすることを控える傾向がうかがえる。

後者については、学生の理解を深めるため計画的に研修の場を設けたり、朝礼に同席させたりするなどの方法により理解を促す傾向がうかがえる。とりわけ、「保育実習Ⅲ」を選択する学生に対しては、自らの予定を報告させるなど、学生の意識の高さに配慮した実習内容が展開されていると考えられる。

「個別支援計画についての実習の内容」、「子どもの家族への支援と対応に関する実習の内容」、「地域社会との連携に関する実習の内容」について

これらは、守秘義務の徹底が求められ、対応を誤ると子どもや家族との信頼関係を毀損しかねない。

「個別支援計画についての実習の内容」については、「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ」ともに、「子どもの課題解決に向けた対応を理解する」を選択した割合が過半数に及ぶ一方、他の選択肢を選択する割合が極めて少なかった。「自立支援計画」や「個別の支援計画」を学生に開示することによるトラブルを警戒する意識が強く働いていると考えられる。

施設職員は情報交換の際に、「子どもは、学生の言葉尻から、知られたくない情報が伝わっていることを感じとる」と述べるなど、慎重に対応している様子がうかがえた。また、学生が同席することで、家族や地域との信頼関係が損なわれる可能性を危惧する旨の発言もあった。

今回の調査から、個別の支援計画の作成、子どもの家庭と関わり、地域社会との連携については、実習中に行われる研修を理解する上で必要な基礎知識が求められていると考えられる。

授業改善に向けた調査結果の反映

日常生活支援についての事前指導の改善

「運営の基準」¹⁾では、「保育実習Ⅰ」において「施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり」「保育士の業務内容」として、「保育実習Ⅲ」において「保育士の多様な業務と職業倫理」として、日常生活支援を実習内容に位置づけている。

表3のとおり、実習中に扱われる子どもに直接関わる日常生活支援のうち、回答率が80%を上回った項目は、「食事の支援・指導」「余暇活動時間など遊びの支援・指導」「洗面・歯磨きの支援・指導」「共用部分の整理・整頓・清掃の支援・指導」であった。いずれの項目においても、子どもに対する支援の仕方は子どもの発達段階や個性に応じた柔軟な対応が必要である。

乳幼児を対象とする場合は、主に頻度の高い声かけと身体の接触を伴う支援を行い、中高生を対象とする場合は、声かけの頻度を最小限にとどめた見守りをすることがほとんどになると予想する。「実習指導」では、この違いについて学生の理解を促すため、ロールプレイングにより発達段階に応じた支援方法を体験的に学ぶ方法が考えられる。また、講義科目「保育心理学」「子どもの発達と家庭支援」、「子どもの理解と援助」「障害児保育」における学習内容と結びつけながら演習を展開する

ことにより効果が期待できる。

日常生活支援のうち表4に整理した項目は、主に子どもたちが登校後に行われる。回答率が80%を上回る項目はなく、あらゆる項目に回答が分散している。この傾向は、施設の種類や方針によって、表れたと考えられる。

掃除、洗濯、衣類整理を円滑に行えるか否かは、学生個々の日常生活のスキルに直結するものであり、授業改善の範疇ではない。家庭において家事に参加する機会が乏しく、洗う、たたむ、拭くなどの基本が身につけていない学生には、課外での指導を行う必要があるかもしれない。

個別支援計画についての事前指導の改善

「運営の基準」¹⁾では、「保育実習Ⅰ」において「計画に基づく活動や援助」「支援計画の理解と活用」として、「保育実習Ⅲ」において「個別支援計画の作成と実践」として、個別支援計画を実習内容に位置づけている。「運営の基準」¹⁾中の個別支援計画とは、障害児入所施設や児童発達支援センターなどでは「個別支援計画」として作成活用される計画書が、乳児院や児童養護施設などでは、策定を義務付けられている「自立支援計画」が該当すると考えている。

表5に示したとおり、実習における自立支援計画と個別支援計画の取り扱い方は、実習施設により様々であるが、これらの計画に沿った支援を理解する機会を設けている施設が多いことがわかる。

回答率が50%を上回った「個別支援計画を通して、課題解決に向けた対応を理解する」ことに対応するためには、「自立支援計画」と「個別支援計画」の違い、関連性、計画立案のしくみなどについての予備知識が必要である。「実習指導」では、講義科目「社会的養護Ⅰ」、演習科目「社会的養護Ⅱ」における学習内容と結びつけることにより、理解を促進できると考える。

長期目標、短期目標、支援内容などの項目で構成される個別支援計画を立案、実践するには、実習期間の10日間では全く足りない。しかし、短期目標と支援内容からなる計画であれば立案、実践が可能である。「観察・記録に基づいた個別支援計画の作成を行う」の回答率は「保育実習Ⅰ（施設）」12.5%、「保育実習Ⅲ」6.3%と少数ではあるが、個別に確認したところ、いずれの実習受入施設においても短期目標と支援内容からなる計画の立案と実践を実施したとのことであった。個別支援計画の目的、内容を理解し、作成を経験しておくことにより、実習中に円滑に個別支援計画の作成ができるだけでなく、入所児童のニーズを的確にとらえ、適切な支援の実践を促すことができる。「運営の基準」¹⁾では、演習科目「社会的養護Ⅱ」の内容に「アセスメントと個別支援計画の作成」を設けている。「実習指導」と「社会的養護Ⅱ」を連携させて、演習を展開することにより個別支援計画の作成手順の理解を促進できると考える。

職員間の役割分担や連携についての実習の内容

「運営の基準」¹⁾では、「職員間の役割分担や連携」を「保育実習Ⅰ」の実習内容に位置づけている。

表6に示したとおり、「職員間の役割分担と連携について、研修を受ける」と「職員朝礼に参加する」の回答率はそれぞれ62.5%に及んでいるが、業務引継ぎを利用した実習を行っている割合はきわめて少ない。研修による対応が多く、引継ぎへの立会が少ないことは、学生と実習担当職員が同一勤

務シフトで勤務することが多く、シフト終了時の引継ぎを実習対象にすることによって実習担当職員の勤務がイレギュラーになり、施設の円滑な運営の妨げとなるためと考えられる。

多くの学生は、「研修を受ける」「職員朝礼に参加する」ことによって、職員間の役割分担や連携について理解を深めることになるが、職種の種類と職務内容について基礎的な知識を備えておくことにより、研修や朝礼の観察からの学びを深めることができると考える。例えば、「保育士」と「児童指導員」の違いや類似性、「心理療法担当職員」、「理学療法士」、「作業療法士」など名称がまぎらわしい職種と職務内容を正確に整理しておくことで、連携の内容や質を整理することが容易になる。

「運営の基準」¹⁾では、講義科目「社会的養護Ⅰ」の内容に「社会的養護の仕組みと実施体系」を設けている。「実習指導」と講義科目「社会的養護Ⅰ」を連携させて、施設職員の職種に関する学習を展開することにより職務内容の理解を促進できると考える。

さらに、「実習指導」において、実習実施前のオリエンテーションや事前の施設調べにおいて、配置されている職員を確認するよう促すことにより、実習中に識別すべき職種を明確にすることが期待できる。

実習先では、職員を名字で呼ぶことが一般的であり、職種毎に服装が統一されていないことがほとんどであるため、実習開始後、学生は職員の氏名と職種を結びつけて把握するための工夫が必要である。「実習指導」では、子どもの名前と個性を覚えること同様に、職員と職種を覚えることにも努力を払うよう事前に促すことにより学生を支援できると考える。

子どもの家族への支援と対応に関する実習の内容

「運営の基準」¹⁾では、「保育実習Ⅲ」の内容として、実習内容に位置づけている。

表7に示したとおり、「子どもの家族の支援の状況について研修を受ける」の回答率は81.3%に及んでいるが、「子どもの家族と対応する場に職員と同居し観察実習を行う」など、子どもの家族との接触を伴う実習を実施する割合は極めて少ない。子どもの家族への配慮の結果と考えられる。

「運営の基準」¹⁾では、講義科目「子ども家庭支援論」の内容に「要保護児童等及びその家庭に対する支援」を、講義科目「障害児保育」の内容に「保護者や家族に対する理解と支援」、「障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携・協働」を設けている。「実習指導」と「子ども家庭支援論」並びに「障害児保育」を連携させて、子どもの家族への支援に関する学習を展開することにより支援内容の理解を促進できると考える。

多様な専門職との連携に関する実習の内容

「運営の基準」¹⁾では、「各施設における多様な専門職との連携・協働」を「保育実習Ⅲ」の実習内容に位置づけている。「保育実習Ⅰ」の内容に記されている「職員」に対し、「保育実習Ⅲ」の内容に記された「多様な専門職」は、「保育実習Ⅰ」で対象としなかった「里親支援専門相談員」「家庭支援専門相談員」「児童自立支援専門員」「個別対応職員」などのソーシャルワークに関する職種であると考えられる。

表8に示したとおり、「職員間の役割分担と連携について、研修を受ける」と「職員朝礼に参加する」の回答率がそれぞれ75.0%と56.3%に及んでいるが、業務引継ぎを利用した実習を行っている割合

はきわめて少ない。多くの学生は、「研修を受ける」「職員朝礼に参加する」ことによって、多様な専門職との連携について理解を深めることになることをはじめ、関連教科との連携の在り方は、「職員間の役割分担や連携についての実習の内容」に記したことと同様である。

地域社会との連携に関する実習の内容

「運営の基準」¹⁾では、「地域社会との連携・協働」を「保育実習Ⅲ」の実習内容に位置づけている。

表9に示したとおり、一般家庭を対象とした子育て相談、児童相談所等の関係機関との連携との連携については研修でのみ対応している。「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」との連携を図って「実習指導」を展開することにより、研修の理解を支援できると考える。

「学校、幼稚園を含む地域の行事への参加に同行し、子どもの支援を行う」の回答率は25.0%である。ほとんどの学生は自らの成育過程で、学校・園や地域の行事への参加経験を持っていると考えられる。「実習指導」では、守秘義務の徹底、肖像権などプライバシーへの配慮、一般的なマナーの遵守などを取り扱うことにより、行事への同行を支援できると考える。

引用文献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. (2022). 指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について (<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000985694.pdf>) (2023年8月1日10時05分)
- 2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. (2012). 児童養護施設運営指針 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000026rqp-att/2r98520000026rwn.pdf>) (2023年7月19日14時35分)

設問 4 「個別支援計画」について、どのような内容を実習しますか。該当する番号を○印で囲ってください。(複数回答可)

- ①「自立支援計画」を閲覧し、研修を受ける。
- ②「個別支援計画」を閲覧し、研修を受ける。
- ③「個別支援計画」を通して、子ども（利用者）の課題解決に向けた対応を理解する。
- ④子ども（利用者）の観察・記録に基づいた、「個別支援計画」の作成を行う。
- ⑤その他()

設問 5 「職員間の役割分担や連携」について、どのような内容を実習しますか。該当する番号を○印で囲ってください。(複数回答可)

- ①職員間の役割分担と連携について、研修を受ける。
- ②職員朝礼に参加する。
- ③職員朝礼に参加し、実習生が関わる予定等を報告する。
- ④シフトが異なる保育士どうしの業務引継時に立ち会う。
- ⑤シフトが異なる保育士への業務引継を行う。
- ⑥その他()

Ⅱ 保育実習Ⅲについて

設問 6 「保育実習Ⅲ」の受入をされていますか。該当する番号を○印で囲ってください。

- ①受け入れている（設問 7 に進んでください）
- ②受け入っていない（設問は以上です。ご協力ありがとうございました）

設問 7 学生が子ども（利用者）に直接関わる実習は、どのような内容ですか。該当する番号を○印で囲ってください。(複数回答可)

- ①食事の支援・指導
- ②間食（おやつなど）の支援・指導
- ③調理の支援・指導
- ④衣服の着脱支援・指導
- ⑤衣類の整理・保管の支援・指導
- ⑥衣類の洗濯支援・指導
- ⑦傷んだ衣類の修繕支援・指導
- ⑧子ども（利用者）の居室の整理・整頓・清掃の支援・指導
- ⑨建物内共用部分の整理・整頓・清掃の支援・指導
- ⑩建物外（屋外で使用する道具類を含む）の整理・整頓・清掃の支援・指導
- ⑪植栽、花壇などの手入れの支援・指導
- ⑫余暇活動時間などの遊びの支援・指導
- ⑬学習（宿題、予習、復習など）の支援・指導
- ⑭小遣いの使用、金銭の自己管理の支援・指導
- ⑮子どもどうしのトラブルへの対応
- ⑯起床、就寝の支援・指導（寝具の清潔、整頓、寝間着の着脱など）
- ⑰排泄の支援・指導
- ⑱洗面、歯磨きの支援・指導
- ⑲入浴の支援・指導
- ⑳その他()

設問 8 学生が子ども（利用者）に直接関わらない実習は、どのような内容ですか。該当する番号を○印で囲ってください。(複数回答可)

- ①食事の準備・片付け（食堂の清掃、食器の洗浄・収納など）
- ②衣類の整理・保管

- ③衣類の洗濯
- ④衣類の修繕
- ⑤子ども（利用者）の居室の整理・整頓・清掃
- ⑥建物内共用部分の整理・整頓・清掃
- ⑦建物外（屋外で使用する道具類を含む）の整理・整頓・清掃
- ⑧植栽、花壇などの手入れ
- ⑨余暇活動支援の準備
- ⑩学習支援・指導の準備
- ⑪その他（

設問9 「個別支援計画」について、どのような内容を実習しますか。該当する番号を○印で囲ってください。（複数回答可）

- ①「自立支援計画」を閲覧し、研修を受ける。
- ②「個別支援計画」を閲覧し、研修を受ける。
- ③「個別支援計画」を通して、子ども（利用者）の課題解決に向けた対応を理解する。
- ④子ども（利用者）の観察・記録に基づいた、「個別支援計画」の作成を行う。
- ⑤その他（

設問10 「子どもの家族への支援と対応」について、どのような内容を実習しますか。該当する番号を○印で囲ってください。（複数回答可）

- ①「子どもの家族」の支援の状況について、研修を受ける。
- ②「子どもの家族」と対応する場に職員と出席し、観察実習を行う。
- ③「子どもの家族」と対応する場に職員と出席し、子どもとの関わりを報告する。
- ④「子どもの家族」と対応する場に職員と出席し、子どもの家族とのコミュニケーションを図る。
- ⑤その他（

設問11 「多様な専門職との連携」について、どのような内容を実習しますか。該当する番号を○印で囲ってください。（複数回答可）

- ①職員間の役割分担と連携について、研修を受ける。
- ②職員朝礼に参加する。
- ③職員朝礼に参加し、実習生が関わる予定等を報告する。
- ④シフトが異なる保育士どうしの業務引継時に立ち会う。
- ⑤シフトが異なる保育士への業務引継を行う。
- ⑥ケース会議等に参加し、保育士以外の専門職との連携の在り方について理解する。
- ⑦その他（

設問12 「地域社会との連携」について、どのような内容を実習しますか。該当する番号を○印で囲ってください。（複数回答可）

- ①地域的一般家庭を対象とした子育て相談について、研修を受ける。
- ②地域的一般家庭を対象とした子育て相談の場に出席し、観察実習を行う。
- ③地域的一般家庭を対象とした子育て相談の場に出席し、相談者とコミュニケーションを図る。
- ④児童相談所等の関係機関との連携について、研修を受ける。
- ⑤児童相談所等の関係機関との会議などに出席し、観察実習を行う。
- ⑥学校、幼稚園などとの連携について、研修を受ける。
- ⑦学校、幼稚園などとの情報交換の場に出席し、観察実習を行う。
- ⑧学校、幼稚園を含む地域の行事への参加に同行し、子どもの支援を行う。
- ⑨その他（

ご協力ありがとうございました。

